



## 子ども・若者 1700 人を対象にした性的グルーミング調査 約 8 人に 1 人が性的自撮り画像や面会等の要求経験ありと判明

2023 年 7 月より 16 歳未満の者に対する面会要求等の罪（性的グルーミング罪）が施行され、性被害に巻き込まれる子どもたちへの対策が強化されるなか、追手門学院大学（略称：追大、大阪府茨木市、学長：真銅 正宏）心理学部の櫻井 鼓教授と特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン（東京都杉並区、事務局長：武田勝彦）は、15～24 歳の男女を対象にした性的グルーミングに関する共同調査を行いました。

その結果、オンラインで性的画像や面会等の要求を経験したことがある人は約 8 人に 1 人（12.4%）にのぼり、そのうち相談したのは 4.7%にとどまることなどがわかりました。

### ◆調査背景

警察庁から発表されている「令和 5 年における少年非行及び子供の性被害の状況」によると、令和 5 年に児童ポルノに関する被害を受けた児童数は 1,444 人で、このうち児童が自ら撮影した画像の被害、いわゆる自撮りによる被害が 527 件と約 4 割にのぼっています。

警察庁犯罪被害者支援室で初めての臨床心理士として勤務した経歴を持ち、犯罪被害者の心理や子どもの性被害、トラウマなどを研究する心理学部の櫻井 鼓教授は、大人が性的な目的で子どもに近づき、手なずけていく「性的グルーミング」と呼ばれる行為について研究を進めるなか、チャイルド・ファンド・ジャパンとの[共同調査](#)（※外部リンク）を実施しました。

### ◆調査結果サマリー

#### ■約 8 人に 1 人（12.4%）がオンラインで、性的画像や面会等の要求を経験

オンラインで出会った相手から「性的な自撮りを送るよう頼まれた」と答えた人が 4.2%、「甘い言葉で誘惑し対面で会うことを要求された」と答えた人が 3.3%など、約 8 人に 1 人が性的画像のやり取りや面会等の要求を経験していることがわかりました。

#### ■「グルーミング」を知らないと回答した人が 73.3%

「グルーミング」という犯罪自体を「知らない」と答えた人が全体で 73.3%、15 才～17 才に関しては 79.3%にものぼり、若者にとってこうした手口が犯罪だと認識できていないことがわかりました。

■オンラインでチャットを受けた経験は女性が多く、ゲームでは男性の方が、割合が高い。知らない人からインターネット上でチャットをもらう経験は女性の方が多いが、オンラインゲームを通じての場合、男性の方が高く、SNS 含め注意喚起の必要があることがわかりました。

[調査結果](#)（※外部リンク）を踏まえ、調査チームは「SNS を利用した啓発キャンペーンなど若年層のグルーミングに関する知識を広める必要性」、「相談所の存在の広報の必要性」などを提言しています。

### ◆調査概要

|        |                                     |        |         |
|--------|-------------------------------------|--------|---------|
| 【調査期間】 | 2023 年 12 月 22 日～2024 年 1 月 5 日     | 【調査方法】 | オンライン調査 |
| 【調査対象】 | 全国の 15～24 歳の男女                      | 【回答数】  | 1,735 名 |
| 【実施体制】 | 追手門学院大学と NPO 法人チャイルド・ファンド・ジャパンの共同研究 |        |         |

この資料の配付先：北摂記者クラブ、大阪科学・大学記者クラブ等

【発行元】 追手門学院 広報課 TEL：072-641-9590 仲西・織田